



Data

監督: トッド・ヘインズ
 原作・脚本: ブライアン・セルズニック『ワンダーストラック』
 出演: オークス・フェグリー/ミリセント・シモンズ/ジュリアン・ムーア/ミシェル・ウィリアムズ/ジェイデン・マイケル/マイケル・スミス/トム・ヌーナン/リドリー・スコット

■ショートコメント■

◆本作のタイトルである「ワンダーストラック」のワンダーは「驚き」、そしてストラックは「圧倒的なものに感銘を受ける」という意味。したがって、ワンダーストラックを直訳すると、その意味は「驚きの念に打たれた」とか「あっけにとられた」ということになる。しかし、ハッキリ言って1927年と1977年という2つの時代を同時並行的に交差させながら静かに進行させていく本作を鑑賞するのは、かなりしんどい。

◆本作のチラシによれば、本作のストーリーは次の通りだ。すなわち、

1977年、ミネソタ。母親を交通事故で失った少年ベン。父親とは一度も会ったことがなく、なぜか母は父のことを語ろうとしなかった。ある嵐の夜、母の遺品の中から父の手掛かりを見つけたベンは、落雷にあって耳が聞こえなくなりながらも、父を探すためひとりニューヨークへと向かう。

1927年、ニュージャージー。生まれた時から耳が聞こえない少女ローズは、母親のいない家庭で厳格な父親に育てられる。憧れの女優リアンの記事を集めることで寂しさを癒していたローズは、リアンに会うためひとりニューヨークへと旅立つ。

新たな一歩を踏み出したふたりは、謎の絆に引き寄せられていく。そして、大停電の夜、何かが起ころうとしていた――。

◆『ヒューゴの不思議な発明』(11年)の原作者である、ブライアン・セルズニックの小説を映画化した本作は、ニューヨークにあるアメリカ自然史博物館を舞台とした、かなりヒューマンな物語。しかし、そのラストは運命の糸が手繰り寄せたような出会いの中での感動的シークエンスになる。しかし、本作の主人公は耳の聞こえない2人の少年少女という設定だから、その感動的なシーンも、手話と手書きのメモを使いながら展開していくこ

とになる。それはそれで悪くはないのだが、どうも私にはまどろっこしさが先に立ってしまうため、つい・・・。

2018（平成30）年4月18日記